

ワーキンググループ最終報告内容に係る将来のフォローアップに関して  
～モニタリングを期待する主な項目等～

令和3年(2021年)3月  
研究開発戦略専門調査会  
研究・産学官連携戦略ワーキンググループ

サイバーセキュリティ研究・産学官連携戦略ワーキンググループ最終報告について、その内容が、今後、どの程度実施され、どの程度進展し、どの程度状態がよくなったか等につき、将来、フォローアップが行われることが想定されるが、政策の策定側として、どのような項目や指標等でモニタリングがなされフォローアップされることを期待するか以下に示し、将来の関係者の参考に付したい。

以下(・)は、モニタリング・フォローアップを期待する主な項目であり、その下で、考えられる指標及び一定の進捗として期待する程度を記している。なお、指標は、事務局で捕捉可能な指標であるとともに、教育研究現場に調査負担をあまりかけないことが重要と考えられる。

(モニタリングを期待する主な項目等)

- 博士課程学生の教育と実社会経験 (2. 2. 1 節)
  - ・サイバーセキュリティとデジタル技術活用の両面からの現場経験の機会の創出・拡大  
(指標) 実施事例 / (一定の進捗として期待する程度) 2年以内に事例が出始め、3年で数件の実施事例が出ていること。 ※なお、更なる進捗として、実施事例が博士人材キャリア形成支援策としての取組やコンソーシアム的な取組につながっていくと更に望ましい。
- リサーチアシスタント(RA)経費の上限柔軟化 (2. 2. 2 節)
  - ・RA 経費をはじめとする経済的支援の上限の柔軟な設定・運用 (情報系分野を含め)  
(指標) 実施事例 / (一定の進捗として期待する程度) 2年以内に事例が出始め、3年で数件の実施事例が出ていること。
- 博士課程進学の新たな形態 (2. 2. 3 節)
  - ・研究プロジェクトや産学共同研究費における RA 経費を活用した博士課程進学の新たな形態の実施  
(指標) 実施事例 / (一定の進捗として期待する程度) 3年で数件の実施事例が出ていること。
- 産学共同研究 (2. 3 節、構想の具体例3. 4 節)
  - ・研究費を人に投入し結果として相応規模になる産学共同研究の実施  
(指標) 実施事例 / (一定の進捗として期待する程度) 3年で数件が開始されていること。
- ファンディングの活用 (2. 4. 1 節、構想の具体例3. 3 節)
  - ・研究コミュニティの活力や研究構想と結びつき企画立案されるファンディング(研究拠点や国際関係含む)の実現  
(指標) 実施事例 / (一定の進捗として期待する程度) 2年で事例が出始め、研究コミュニティから相応数の申請がなされること。
- プロシーディング論文の研究実績の評価 (2. 4. 3 節)
  - ・研究費申請書においてプロシーディング論文も研究実績に含まれる旨の明確化  
(指標) 実施事例 / (一定の進捗として期待する程度) 1年で記載が変更され始め、3年でほぼ記載が変更されていること。

■ 全体

- ・重点的な研究領域(3. 2節)におけるアカデミックな研究の強化(日本の国際的な存在感(顕著な活動・成果が見えるか)の向上)  
(指標) トップ4 及び Tier2 カンファレンスにおける日本の論文採択の状況 / (一定の進捗として期待する程度) 3年で増加傾向が見られること。 ※なお、更に、これら採択論文の被引用数の考察やカンファレンスのプログラム委員や実行委員等の運営側への就任の状況のモニタリングもなされると良いと考えられる。

注: 指標において「実施事例」とあるものは、いずれも、大学等に悉皆的な定型的調査を行うものではなく、事務局が関係者のネットワーク等を通じて収集できる現場のプラクティスを想定している。これにより、いわゆるグッド・プラクティスが共有され、更なるプラクティスを促進する効果も期待できる。